



8月26日(日)、せたな町全域を対象に地震・津波などの自然災害被害を想定した、総合防災訓練が実施されました。今回の防災訓練は、北海道南西沖地震による被災から今年で20年目を迎えることから、あの災害を風化させず、後に語り継ぐものとして実施したもので、合併後初めての町内一斉訓練となりました。



◎合併後初の町内一斉訓練を実施 せたな町総合防災訓練

**避難訓練に住民
1141名が参加**

今回の訓練は、町内会・自主防災組織による防災意識の向上と、防災体制の構築を主な目的として行ったもので、町民の皆さんが主役となる訓練となりました。

当日は、午前10時17分に北海道南西沖を震源とする巨大地震が発生したという想定で訓練がスタート。平日にもかかわらず、せたな町の住民1141名が参加しての大規模な避難訓練となりました。

また、この避難訓練と同時進行で、警察や消防、自衛隊といった関係機関による、情報伝達訓練や救助搬送訓練など、皆さんの目につかないようなところでも訓練が行われていました。

**火災消火や
心肺蘇生訓練も**

避難訓練後には、消防署職員の指導により、消火器を使っての火災消火訓練のほか、心肺蘇生法やAEDを使った救命講習会が行われた地区もあり、町内会の皆さんには今回の総合防災訓練の機会を積極的に活用していただきました。



瀬棚港でも 大規模訓練を実施

午後からは瀬棚港において港の総合防災訓練も実施され、関係機関が一堂に会し、さまざまな想定による火災船消火や負傷者救出搬送といった大規模な訓練が手際よく実施されました。

また、会場では災害派遣車両展示会も同時に行われ、見学に訪れたみなさんは普段見ることのできない、災害用の車両について担当者を利用方法を質問するなど、災害現場で実際に活躍している車両の性能に感心していました。

初めてとなる町内一斉の防災訓練でしたが、実際に避難訓練に参加された町内の皆さんにとっても、避難時間や経路の問題などの課題も見えたと思います。特に今回は、平日の午前中ということで、家族が職場や学校などバラバラな状態での訓練となりました。それぞれの環境で、どのように避難し、どのように家族の安否を確認するのか、訓練の経験を活かして再度確認をしてみてください。今後は、町内会・自主防災組織においても、独自に訓練や講習を実施するなど、積極的な自主防災活動を進めていただき、地域の防災力を高めていきましょう。